

## 令和2年度 市長懇談会 会議録

【日 時】令和3年3月23日（火） 14時00分～15時30分

【場 所】周南市役所 多目的室

【テーマ】「安心して子育てができるまちづくり」

【出席者】○市長

- 一般社団法人 HapimamaPLUS（子育てしやすい街やコミュニティづくり、女性の活躍を応援する団体）
- 周南市母子保健推進協議会（子育てに関する身近な相談役として活動する団体）
- 周南地域子育て支援ネットワーク 虹色ねっと（子育てと子育て支援をサポートする団体）
- こども支援課長
- 次世代支援課 課長補佐
- あんしん子育て室 室長、係長
- シティプロモーション課長
- シティネットワーク推進部長、シティネットワーク推進部次長、市民の声を聞く課長他

### 【会議録】

#### <市長>

本日の懇談会のテーマは、「安心して子育てができるまちづくり」としている。

本市では、市の最上位計画である「まちづくり総合計画」の中で、「子育て応援」、「輝く子ども育成」を重点推進プロジェクトに掲げ、子育て支援や母子保健の充実、保育サービスの充実に取り組んでいるところである。

昨年には、妊娠期から出産・子育て期に渡る、切れ目のない、きめ細やかな支援を行うため、新たに「あんしん子育て室」を設置した。この4月からは、次世代政策課、こども支援課、あんしん子育て室を統括する「こども局」を組織し、体制をさらに強化する。

また、子育て支援のより一層の充実を図るため、電子母子健康手帳機能を備えた「子育て支援アプリ」の導入や、これまで所得制限があった小学生以下の医療費を、10月からは、すべて無料にするなど、子育てしやすい街を目指し、取り組みを進めていく。

本日は、子育てに関する活動をされている皆様が、日頃の活動を通じて考えていらっしゃることや、感じておられることなどを踏まえ、それぞれのご提言について、ご参加の皆様全員で意見交換し、内容を深めていきたいと思っている。

本日のご提言等を参考にさせていただき、市政に反映してまいりたい。

#### <シティネットワーク推進部長>

最初に、本日お越しの皆さんから団体の紹介や、自己紹介、ご意見・ご提言についてのご説明をお願いします。

## <一般社団法人 HapimamaPLUS>

私達は約8年前から、子育てサークルとして活動している。約3年前に法人化した。法人化した経緯は、ママの居場所作りとして活動していたが、会員のボランティアの人達の負担が多く、サークル活動に自分達の時間と取られてしまい、家族からのクレームが出てしまい、なかなかボランティアが続けられず、仲間達が離れていくところを見ていた。そこで、ボランティアをしながらでも、対価として支払うことができれば、継続できると思い、3年前に法人化した。

私達がテーマとしているのが、子育てをしながら何かプラスのことになればと思い、社名を「HapimamaPLUS」と付けた。プラスというのが、ママだけでなく、子育てを頑張っている、パパやおじいちゃんやおばあちゃん、子育てを支援したいという人達に、みんなでプラスの効果ができればいいなと思い活動している。

特に私達は、転勤族の方の居場所作りをメインに動いている。提言にも繋がるが、安心して子育てするためには、共感できる仲間づくりが必要だと思っている。また、仲間を作っても、一緒に活躍していけないと、そのまま終わってしまう。特に周南エリアは転勤族の方も多く、核家族や共働き世帯も多い。特に去年はコロナの影響もあり、周南にいても横の繋がりが作りにくくなっている。

幼稚園児までのお母さん達は送迎の時に、他のお母さん達と繋がる。小学生以上のお母さん達は、子どもが学校に行けば、初めて知らない土地で何をしたらいいのか分からない。地域の情報が知りたいが、なかなか知ることができない。都市部では携帯で検索すると、データもたくさん出てくるが、山口県のものに関しては、数年前のものがたくさん掲載されている。

横の繋がりや知り合いを作りたいということで、昨年コロナに気を付けながら、転勤族のママの会を開催した。参加者には、先週周南市に引っ越しされてきた人から、数年前に周南市に引っ越ししてきた人まで、多くの方に参加していただいた。

そういった方達に、周南市はどこに行ったら人に出会えるの、駅前図書館のビルには人はいるが、外を歩いている人がいない。人がいないので不安になるとよく言われる。

逆に彼女達を巻き込んで何かをすることによって、周南市にはなかった魅力を気付かせてもらえるかもしれないし、いずれ転勤で周南市を出て行くかもしれないが、その時に、周南市でこういうことを知ったとか、始められたことなど、何か活力になるパワーになるものを見つけてもらえれば、次の場所に行かれても、周南市でこんなことをやったという、いいPRに繋がるのではないかと思う。

そして、そういう彼女達の声を取りあげることによって、彼女達も一緒に周南の市政に関わっていたということで、よいシティプロモーションが行っていいのではないかと思っていたので、是非、彼女達を巻き込んだ、仕組みづくりを行ってほしいと思い提言した。

次に、居場所づくりと情報の共有ということで、本日参加されている、虹色ねっとさんの活動に私も参加させてもらっているが、今、子育てサークルをやっている方達の年齢層が大きく二分化されていると感じている。現役のママ世代、若しくは、子育てが落ち着かれてずっと子育て支援をされている方、実際、私達も8年の子育てサークルの経験

の中で、周南市の子育てサークルの寿命が3年間のように感じる。自分が出産し、ママ友を作りたいということでサークルを作るが、子どもが幼稚園に行き始めると、なかなか一緒に集まることが少なくなりサークルが消えてしまう。リアルのママ友で繋がるサークルの方達は、SNSなどの情報共有や、元々いらっしゃる仲間の中で作っておられるが、昔ながらの活動をしているサークルは、市民センターなどにチラシを置いて募集していると伺っている。しかし、私の周りにはいるママ世代に聞いても、市民センターなどに行かれる人はあまりいない。せっかくいろいろな活動をされていても、その情報のマッチングができていない。

また、転勤族の方は定住世帯ではないので、自治会に加入されない人がほとんどである。そのため、回覧板なども届かず市が広報などで情報を発信されていても、行き届かないのが現状である。50代以上の方は、SNSに苦手意識がある人が多いと思うので、市民団体の方も公共のアプリに情報を簡単に掲載できるような仕組みを作り、みんなで情報をまとめて、多岐に渡った支援ができればいいのではないかと考える。そこで、今の子育て世代に合わせた情報共有の仕組みづくりが必要ではないかということで提言させてもらった。

#### <市長>

ありがとうございました。HapimamaPLUSさんがおっしゃるように、転勤族の奥さんは、以前住んでいた市町村の良い所や、本市に足りないことなど感じておられると思う。

今は子育ても随分変わってきているので、公共のアプリなど、仕組みづくりを作っていないといけない責務を感じた。また、活力に繋がるコアなものを、次の市に行かれても、周南市のことを伝えていただけると嬉しく思う。

また、新たな視点をいただけたように思う。子育ては、パパとママだけではなく、いろいろな人がプラスされたものが、大きな子育ての力になるかと思う。その人達の力が出せるよう、足し算ができるような仕組みづくりの基を作っていかなければならないと思う。

市が進める新たなシティプロモーションは、本市出身者や本市にゆかりのある人など、多くの繋がりを構築し、関係人口を拡大していくこととしている。

転勤された先で、周南市のPRをしていただくなど、「関係人口100万人ネットワークの構築」に大いに貢献していただけるのではないかと考えている。本日は、よろしく願います。

#### <周南市母子保健推進協議会>

母子保健推進協議会（母推）は、今年度133人で活動している。コロナ禍で活動が思うようにできないが、活動内容としては、配布してあるチラシのとおりである。

今、お話を伺って母推を知らない方もおられるのだと思った。母子保健手帳を保健師さんからお渡しされた時点で、母推には情報が共有される。ただ、母推を受け入れていただけるか、そうでないかで変わってくる。母子保健推進委員が何をしているところなのか分からないので、断ったという話を聞くことがあり残念に思うこともある。

母推は地域の妊婦さん、産婦さんや赤ちゃんの家庭を訪問し、問題があれば保健師さんに繋いだりしている。虐待などを見つけるのも母推の仕事だが、今年はコロナ禍で、母推

として活動ができないのが正直なところである。

母推がやっていることは、生まれて4～5ヶ月までに、絵本を持って訪問している。コロナのこともあるので、消毒などを行い、最新の注意を払って訪問している。ただ、赤ちゃんを抱っこもできないし、あまり会話もできないので、相談も受けるだけに留まっている。

先程も話があったが、最近のお母さんは地域の繋がりが薄くなっている。田舎はそうでもないが、町場の地区は大変だと聞いている。自治会に入っただけのような、良い施策があれば嬉しく思う。

(発言者交代)

山口市などは屋内で遊ぶ施設があり、周南市でも天候が悪い時に屋内で、親子で遊べるような施設が欲しいとお聞きしたので、是非実現していただきたい。

また、近所の公園の遊具が錆びており、服に汚れが付いて困ったという話を聞いたので、遊具のメンテナンスも是非お願いしたい。

<市長>

母推さんは、地域の子育てボランティアとして市と地域のパイプ役となり、母子保健事業の推進や支援をいただきお礼申し上げます。地域のやさしいお母さんとして地域を見守っていただきありがとうございます。

雨の日に、遊びに出かけられるところはどこがありますか。

<こども支援課>

市の施設で言うと、小さなお子さんでしたら、子育て支援センターが利用できる。小学校に行かれていますお子さんは、そういう場所は確保できてない状況だと思う。

<市長>

公園の遊具については、2か月に1回、すべての遊具について、目視等の点検を行い、必要に応じて、修繕等を行っている。新しい遊具を設置するのはなかなか難しい状況なので、細やかなサービスが行き届いてないのが現状かもしれないので、しっかり声を届けて欲しい。

<周南地域子育て支援ネットワーク 虹色ねっと>

虹色ねっとは、地域の子育てと子育て支援をサポートする周南地域の子育て応援団です。周南市・下松市・光市の3市を担当している。子育て支援リーダーの地域コーディネーターを中心とした、子育て支援活動団体や行政によるネットワークである。

地域コーディネーターとは、平成17年に開催された、やまぐち子育て県民運動・地域コーディネーター養成講座を受講したメンバーである。

虹色ねっとは、子育て中のパパ、ママには近くの子育てサークルの紹介や、子育て中ならではのニーズを行政に届けることを行っている。また、子育て支援活動中の方には、子育て支援にかかわる情報の提供や相談など行い、地域の子育て支援をコーディネートして

いる。

活動内容としては、定例会、虹色ねっと子育て交流会、地域コーディネーター会議などを行っている。交流会では、市や母推さん食生活改善推進協議会（食推）さんと連携して開催し、食推さんには周南スープを教えていただき、周南の一番のスープだと思っている。

その他の活動として、子育て支援活動おたすけハンドブックも作成している。また、学校内子育てひろばの支援として、住吉中学校で中学3年生65名と乳幼児43組でひろばを開催した。その他にも富田中学校や福川中学校でもひろばを開催した。県内でいうと中学校・高校あわせて66校で子育てひろばを開催している。それから、その他に2月には、189（いちはやく）サポート研修を行った。

定例会は、毎月第2金曜日に周南総合庁舎の3階のプレイルームで行っている。子育てサークルに参加・運営されている方や興味のある方など誰でも参加でき、子どもと一緒に参加できる。活動は、新しい子育て支援の情報の発信や、サークル活動を応援・支援し、運営の悩みを聞いたり、地域と個人・団体、行政を繋げたり、子育て支援に対する意見交換を行うなどしている。

（発言者交代）

続いて、提言について話をさせていただく。まずは教育についてで、子育ては小さい時で終わりではなく、子どもが大人になるまで続く。大きくなるほどお金もかかる。周南市では修学支援などがあると思うが、他町では給食費も無償にしているところもある。

先日、広報にも掲載があったが、周南市の奨学金の制度はあるが、現代の状況に合っていないと感じている。大学の学費やアパートの家賃なども年々上がっているのが実情で、奨学金を借りながらアルバイトをし、ようやくお金が足りて、修学できるのが実情だと思う。アルバイトをしてもお金が足りず、やむを得ず退学するのも耳にするので、もう少し金額が上がればいいと思う。また、市の奨学金の中に、償還の特例があり、卒業後に周南市に3年以上定住した場合、免除されるとあるが、子どもが周南市に戻ってくることで、定住促進にも繋がると思う。定住促進に繋がれば、また周南市で子どもを育てようという気持ちも湧くと思う。

教育の世代間連鎖もあり、低所得者だと、子どもを塾等に通わせることが出来ないのも、学校の勉強についていけず、学力が下がる。学力が下がると進学も難しくなる。定職にもなかなか就けない。定職に就くことができないと、その子が大人になって、子育てをする時に、収入が少なくなりがちで、世代間連鎖に繋がると思うので、学校だけで足りない学習を元教職員や、高校生、大学生ボランティア等を活用し、低額や無料で学習出来る場所を作ってはどうかと思う。

私の子どもが通っている学校では、コミュニティスクールの取り組みで、テスト期間中に、施設で勉強を見てくれる機会があった。塾に行っていない子達も気軽に勉強できる機会ができたのではないかと思う。

次に、異世代交流については、核家族化や兄弟姉妹の人数も減り、異世代間での交流が減っているのではないかと思う。学校内広場や子育て支援センターなどで、いろいろな世代間で交流をして、地域との繋がりを作り、地域みんなで子育てをしていき、子育て世帯に安心感を作る良い場所になるのではないかと思う。年齢の高い子どもは、将来の自分の

子育てを想像したり、高齢者は子どもに元気をもらったりできると思う。

#### <市長>

以前、住吉中学校の「赤ちゃんと学校に行こう」という企画を、立ち上げる際に虹色ねっとさんも深く関わっていただきありがとうございました。私も、当時、県議として参加させていただいた。参加していた男子中学生が、初めて赤ちゃんを抱っこしたと言っていたが、その経験の重要性を感じたし素敵な光景であった。大人になっても子育てに関わって欲しいなと思った。

周南地域で、子育て交流会の実施など、長きにわたり、子育て支援の自主的な活動、感謝申し上げる。

先程言われた、経済的負担、そうした不安を取り除くことも、市の施策として考えていかなければならないと思っている。

お手元に配布している、奨学金に関する資料の2ページの表をご覧ください。この4月から奨学金制度の一部を見直し、大学、専門学校等を卒業後、周南市に3年以上居住した場合は償還を免除する定住促進奨学金の貸付額を、従来の月額1万円に加え、2万円も新設し、どちらかを選択できるようにした。

また、子どもの明るい未来サポート事業において、経済的な理由や家庭の事情のある中学3年生を対象に、高校進学を支援するための、学習会等を実施していくこととしている。是非、虹色ねっとさんの活動の中でも、PRしていただけたらと思う。

#### <次世代支援課>

子どもの学習生活支援事業は、令和3年度から、中学校3年生を対象に行うこととしている。市内、数か所で学習支援を行う予定にしている。準備ができれば皆さんにも情報提供するので、PRの方もよろしく願います。

#### <市長>

事前に、皆さんのご提言を見させていただいている。また、ただいま一通り、皆さんからお話を伺ったが、子どもを取り巻く環境は、全国的に、少子・高齢化の進展や核家族化、働く母親の増加などにより、大きく変化していると言われて久しいと思う。こうした子育ての環境の変化は、人々の地域社会に対する意識が変化し、地域の絆の弱体化や、地域で子どもを育てるといふ、意識の希薄化などが要因と考えられる。

そのため、地域における人と人との繋がりや、信頼関係を回復し、子育ての場面のみならず、人々が互いに支え合い、安心して生活できる地域づくりを進める必要がある。

先日、発表させていただいた、本市の新たなシティプロモーションのキャッチコピー、「ここから、こころつながる。周南市」にもあるように、私は、人と人の繋がりをとても大切にしている。

本日は、現代の子育て環境としての「地域社会」に着目し、特に「地域とともに子どもを育てる」の観点から、そして、「地域の人々や関係団体の繋がりをどのように進めるか」などを中心に、限られた時間ではあるが、皆さんのご意見・ご提言を深めて行きたいと思

う。

まず、虹色ねっとさんにお聞きするが、高齢者は今の年齢に至るまで、知識や技能をたくさん習得されている。地域で子どもを育てるには、そういったものがとても大切だと考える。地域内で、世代を超えた交流を進める活動もされていらっしゃるが、ご苦労もあろうと思う。大変なことや、大切にしておられること、その活動で得られるものなどがあれば、お聞かせいただきたい。

#### <周南地域子育て支援ネットワーク 虹色ねっと>

毎年交流会を開催しているが、そのメンバーの中に、いろいろな技術を持っている年配の男性がおられ、おもちゃ病院を担当してもらっている。おもちゃ病院というネーミングで多くの子ども達に参加してもらっている。

食推さんも、ご高齢になられているが、食の大切さを子育て中のママ達に伝えたいということで、毎回参加していただいている。

おもちゃを作ってくれる高齢者もおられ、皆は「かっちゃん先生」と慕い、クリスマスのシーズンでは、クリスマスグッズを作っていただくなど協力いただいている。

(発言者交代)

先程話した、核家族の話にも繋がるが、私の家庭も核家族であり、祖父母と接することが年に数回しかなく、地域の世代間が違う方との交流は大事だと思う。中学校での子育てひろばを行っているが、そこで、素敵な交流を目にしている。いろいろな年齢の子ども達同士が交流することが必要だと思う。また、子育てひろばの運営に、母推さんにもボランティアとして協力していただいている。高齢の方もおられ、祖父母世代の方とも触れ合うこともできたと思う。

#### <市長>

みなさんも、いろいろなことを感じられたかと思う。先程、食推さんの名前もあつたが、子どもを育てていくという目的はどこの団体も一緒だと思う。多くの団体が、特色のある子育て支援を行っておられる。そういった団体が繋がり、情報を共有することは、とても有意義であると考えます。

次に、HapimamaPLUS プラスさんにお聞きするが、先ほど、シティプロモーションのお話もあつたが、HapimamaPLUS プラスさんが考える、共感できる仲間づくりや今の子育て世代にあわせた情報共有の仕組みづくり、それは子育て支援を行う各団体の繋がりを重視したものではないかと考える。その辺りをもう少し、詳しくお聞きしたい。

#### <一般社団法人 HapimamaPLUS>

今、虹色ねっとさんのお話にもあつたように、各団体さんすごく思いを持って活動されている。でも、なかなか今の若いお母さん達には届いていない。先ほど、母推さんが言われたが、どういった活動をしてるか分からないからお断りをされてしまう。実際、私達も出産した後に、母推さんが自宅に来て下さるが、セールスや宗教の勧誘などいろいろな方が来られるので、ドアを開けていいのか悩む方が非常に多いと思う。母推さんであれば、

メッセージを入れてくださるので、出ればよかったなと思うことも、たくさんあるかと思うが、せっかく訪問してくださるのに、マッチングできないのは勿体ないと思う。

例えば、名刺などを玄関のインターフォンのカメラに見せてもらうなどルール化したり、母子健康手帳を申請する時に、エリアの担当者の顔写真と氏名が分かるものをお渡ししてもらうなどしたらいいのではないかと思う。転勤族の方に関しては、転入届を出されたときに、住む地域での活動内容を掲載した冊子やメモ書きなどを配布して、マッチングさせていただくと、情報の漏れがカバーできるのではないかと考える。

また、単発的にイベント毎で内容がホームページなどに挙がってくると思うが、各団体が、「はびはぐ」などのサイトに、共有のURLでアクセスできるようになれば、情報をアップデートできる仕組みづくりができれば、より細かな多世代の方に情報を届けていけるのではないかと考える。

(発言者交代)

私自身、4年前に関東から周南市に転勤してきた。転入して最初に紹介していただいたのが、「はびはぐ」のアプリだったが、サイトを見ても情報が少ないように感じた。小さい子どもをどこに連れて行こうか自分なりに調べて、支援センターに行ってみたが、人の家のような雰囲気だったり、すごく古い建物だったりで敬遠してしまい、私はあまりそういう施設には行かず、幼稚園の解放している日に遊びに行ったり、入園後、横の繋がりが出来て、交流できている状態である。

当時、本当に出かける場所もなく、どこに行ったらいいかも分からず、行ってみたら地元の方の輪ができていて、入りづらいというのがあるかなり出かける場所には困った。子育てにおいて、情報を得るのはすべて携帯なので、携帯で調べられる情報でないと、何も入ってこない。家に母推さんが訪問していただいたこともあるが、なかなかタイミングが合わず、お会いできなかった。何かチラシが入っていても、勇気が出ずに参加できないこともあるので、携帯で調べた範囲で出てくる情報なら、ポジティブに受け入れられると思う。

<市長>

ありがとうございます。こちらも情報をいろいろ出しているつもりではいるが、なかなかマッチングしていないということですかね。子育て中の現役のお母さんの声を聞かせていただきたいと思う。市も情報を集めて、情報を上手に発信しないといけない。同時に子育て支援の人がいらっしゃれば、力をお借りして、一緒にやっていく必要があると感じた。

マッチングのことが一番大切だと思った。母推さんの話があったが、各団体素晴らしい活動をされているし、これからも応援していかなければならないと思うが、母推さんを知らなかつたり、受け入れられなかつたり、といういろいろな苦労があると思う。

私が子育てをした時代は、玄関を開けっぱなしにして子育てをしていたので、母推さんが近所の方というのもあり、深い信頼関係を築けた。予防接種の話や、夜泣きの相談など、いろいろな話を聞かせていただいて、地域のお母さんのような気がしていた。

そばに相談する人がいてくれるだけで、本当に安心できるし、その後は、幼稚園や保育園、小学校の先生など相談相手ができるが、それまで家庭にいる間は、母推さんは大きな

力を発揮してくださっていると思っている。

I Tの技術のおかげで、情報入手しやすい環境ではあるが、母推さんとのアナログのお付き合いも、とても大切にしたいと感じている。先ほどご意見のあった情報の収集も大切だと思う。

母推さんの活動の中で、いろいろと連携をされていると思うが、どのような連携が考えられるか。また、母推さんの活動を通して、今の現状をどのように感じられておられるか聞かせていただきたい。

#### <周南市母子保健推進協議会>

今、良いご意見をいただいたと思った。保健センターで母子健康手帳をもらえる時に、名前と顔写真の提供があれば、こちらも訪問しやすいと思う。私達は、事前に電話連絡して訪問するが、知らない番号から電話が架かると、出られない方もたくさんいらっしゃり、訪問自体も難しくなっていると思う。こういうのがあれば訪問しやすいと思った。

情報共有というのは、母推は周南市の委託事業になり、個人情報がたくさんいただいている。それを他の方に教えることはなかなか難しいが、何かサークルの情報をSNSで情報発信できればいいなと思った。

母推は地域で活動しており、自治会やコミュニティと積極的に関わっている地域もあるし、そういう団体と全く関わっていない地域もある。例えば、久米地域では夏祭りや運動会などをスタッフとしてお手伝いし、地域の人と知り合うことによって、いろいろな関わりを持てることがすごくプラスになっている。母推は女性が多い団体であり、力仕事や駐車場の整理など、地区の方々をお願いして気持ちよく手伝っていただいたり、そういう関わりができています。

先ほど、食推さんの話も出たが、母推の方でも、食育を重要視しており、年に1回、減塩の味噌汁とおむすびを作っていただき、お母さんとお子さん達に試食していただいている。すごく喜んでいただいている。あるお母さんは、自分の家の味噌汁を持参され、塩分濃度を調べられたりしていた。

須々万地区では、社協の子育てサロンの方と一緒に、年に2回、合同でサークルを開いておられる。

周陽地区では、市民センターの空き地で、芋の苗植えからされ、芋掘りを親子で楽しんでいただいている。民生委員や連合自治会、コミュニティ推進協議会の方もお手伝いいただき、大変好評を得ている。母推も地域性はあるが、地域に出れば、いろいろな方と知り合いになり、いろいろな活動もできている。

最初に母推自体を知らないという話もあったが、地域に出て行って母推がこういう活動もしているのだと分かれば、転勤された方でも、SNSでの発信も大事だが、近所の人に話を聞かれたりということもできると思う。私達は地域での活動も重要視している。

(発言者交代)

中山間地域では、隣近所のおじいちゃん、おばあちゃんのような雰囲気家庭訪問が出来る。今はコロナで訪問できないので、寂しいという声はよく聞いている。地域性を生かしつつ、活動をしていかなければいけなくなりつつある。中山間地域はそれでいいが、町

場はマンションに行っても戸を開けてもらえない。例えば、母推の担当の携帯番号など個人情報、どこまでみなさんにお伝えしたらいいのか、教えてもいいものだろうかと市の保健師とも相談している。電話はして行くが、お母さんが知らない番号だから出ないとか、だんだん社会が変化しているが、警戒される方が増えてきている。母推もやりづらいし、地域にも、溶け込みにくくなっているのかと思っている。

地域のイベントも、多くの方が参加していただけて嬉しいのだけれども、今年はコロナ禍で動けず、残念な気がしている。

また、お手元にお配りしている、「ゆりかご」という情報誌を発行し喜ばれている。是非、見ていただきたい。

#### <周南地域子育て支援ネットワーク 虹色ねっと>

自分は民生委員もしており、いつも感じているのが、市役所で転入の手続きをされる時に、子育てサロンの情報を市の方で配布してもらうような取り組みを提案したいと思う。

また、新しく入居された方には名刺を持って自宅に訪問しているが、地区の担当の民生委員と母推さんが一緒になって何か活動できれば、何かお母さんが困ることがないように、それぞれの活動内容の情報をお母さんに届けることができるので、横の繋がりを持ちたいと感じた。是非、そういう機会を作っていただきたいと思う。

#### <一般社団法人 HapimamaPLUS>

先日、虹色ねっとさんのほうで、ひとり親世帯にフードバンクから、食事やお菓子の支援をするという活動があったが、シングルマザーの人達は昼は働いており、そういうサービスは嬉しいのだが、日頃、勤めなど外に出ているからこそ、担当の母推さんが分からない。どこから母推さんを調べていけばいいのかがまず分からない。だからこそ、分かりやすく見える化して欲しい。提言の中に、担当の母推さんが分からないと入れさせていただいた。

あと、先般、広島会社だが、「ためマップ」という行政の行事のアプリを作っている会社に、実証実験で、山口県の関係で参加させてもらった。神戸の長田区でも導入されているアプリになる。その時に、母推さんの子育て支援の情報などをしっかり持っておられると思うので、その方達との連携をしたらどうかと話をしてみたが、その担当の方からも母推さんって何でしょうかと言われるぐらいで、実際の子育てに関わっている人でないと、情報は分からないのかなと、難しさをすごく感じた。

どういうふうにすると、分かりやすくなるのか、母推さんだと何が相談できるかなどで、例えば、地域でお祭りがあることも、知らないお母さん達もたくさんいると思う。今日は、空いているからどこに行くか、今週末どこに行こうか、そういう方々に情報誌の「ゆりかご」や芋掘りのチラシなどがポストに入っている、その日に行きたいと思わないと、新聞のチラシと同じような扱いになってしまい、その後、チラシが見つからない。

だからこそ、アプリのような軽いもので、今週の予定がまとまってカレンダーなどで見つけられると、申し込もうかなというふうに、情報の抜け落ちがなくなるのではないかと思う。共有できるようなツールがあればいいなと思って提案させていただいた。決して、

母推さんの活動が分からないのではなく、自分達の担当だったり、自分達のエリアでどんなことや行事があるのか、客観的に見やすくできるようなものがあれば、いろいろな共有ができるのではないかと思います。

<市長>

ありがとうございます。

母推さんは、子育て家庭の相談役、また、市とのパイプ役などいろいろな活動をしていただいてありがたい存在である。地域の中で他の団体と繋がることの大切も先ほどからの意見も出していただいたが、子育てや子どもの教育にも必要なことだと思う。

先程の意見にもあったが、皆で子育て環境をいいものにしていきたいと頑張っている。コロナ禍の状況で、足踏みをしている状況であるが、地域活動においても、自然豊かな環境の中、三世代家族で世代を繋ぎながら、子育てをされている地域と、町の中で関わる人が無い中で子育てをされている地域は、違いがあるかと思う。

子育て環境は違っても、最初の人と関わるきっかけ作りが大切で、例えば、若い世代で通勤族の方で、この町で子育てを行っていかねばならない状況の方にも、市も子育てに関する情報を、時代にあった方法で提供していかねばいけないと思う。市の担当する課がわからないのであれば、見える化を図らないといけないし、これらの意見を施策に生かしていかないといけない。本市は、子育てにやさしい町を目標にしているので、市の事業も進歩していかないといけない。この度、新しい子育て情報サイトが開始されるので、紹介したい。

<あんしん子育て室>

この度、4月1日から新たに、新しい子育て情報サイト「はぴはぐー母子モー」の発信が始まる。この度、新たに導入するアプリは、母子健康手帳の機能を兼ね備えている。お子さんの成長データをアプリの中で保管管理でき、家族や親族とも共有できる。また、アプリの中で面接の相談が行える機能もある。発信する情報についても、子ども遊び場や公園の情報など、今後も充実を図っていく。是非、アプリをご覧いただきたい。

<市長>

虹色ねっとさんや母推さんなど、団体の活動の情報は、そのアプリに載せることは出来るのか。

<あんしん子育て室>

子育て支援団体さんの活動をどこまで載せることができるかは、今後、皆様のご意見を伺いながら検討することになるが、市として情報発信していくことになるので、間違った情報を載せてはいけないこと、開催予定が中止になってしまった場合でもそのまま掲載されることもあってはいけないので、掲載する際のルールをきちんと考えていかないと考えている。できる限り、情報発信のツールとしてアプリが活用できるよう考えている。

<市長>

先ほど、母推さんから、食推さんや民生委員さんとの連携をしているお話を伺ったが、他の団体の皆さんも、いろいろと横の繋がりをもっていらっしゃると思うが、団体の活動の中で、他の繋がりについて具体的な事例など連携についてご意見などございませんか。

<一般社団法人 HapimamaPLUS>

転勤族の居場所づくりということで提言しているが、参考にしているのが宇部市の事例がある。いろいろな自治体が、移住される方向けに誘致に関していろいろな取組をされているが、実際、転勤された方と同じで、移住された後に困りごとがたくさんあるという意見が非常に多い。そこで宇部市では、移住や転勤で来られた方のために居場所カフェを市が中心となって開催されていた。近くの人気パン屋さんのパンを買ってきて、一緒に食べたり、里山に行ってバーベキューをするなど、横の繋がりができるよう企画をされていた。コロナ禍の状況な中、山口県に転勤で来られて、これまでは、都会で欲しいものを買うなど暮らしていらした方が、欲しいものが買いに行けない、時間をつぶす場所もない状況で、なぜこのような場所に来たのだろうと不安になる話を、よく聞くことがたくさんある。このことを、地元の方に話すと、嫌味に感じられるであろうと思うので言い出せない。同じ境遇の方同士の居場所をつくり、そこで話すことで、他の地域の情報が得られるなどして、元気になられていた。市もPRし、周南市に来られた方の居場所づくりを取りこんでいただけると、移住者や転勤してこられる方にやさしいまちづくりができるのではないかと考えている。

<市長>

ありがとうございます。

そうですね。自分自身に置き換えてみると、そういう居場所が無いと気持ちが沈んでしまいそうですね。今度、シティプロモーションで、関係人口100万人ネットワークの構築を進めます。これは、周南市の応援団で、いろいろな場所など外部から周南市を応援していただきたいと思っている。この応援団の中でも、コロナ禍で山口県に来て、こんなことに困っているなどの声を発することができて、それを受け止めることができればいいですかね。

<一般社団法人 HapimamaPLUS>

市が、イベントのような形で開催してくださることで、出かけにくかったところが、出掛けるやすくなるという、きっかけ作りにはなると思う。イベントは、行政が行うことにより出掛けやすくなる。移住などで、受け入れ先で市がこういうことも行っているのだと思えることで、印象が上がってくると思っている。

<市長>

そうですね。行政が、どこまでできるかは課題ですが、考えていかないといけないとこ

ろですね。例えば、以前、結婚の出会いの場を作ることを行政がやる必要があるのか、ないのかということがあった。行政が行うことで信頼度が高まるとも言われた。なかなか、踏み込めないところもあったが、最近では、県でも主体的に行っている。周南市でも、そういうイベントの補助金を出している。市が行うという意味があるのでしょうか。新たに、周南市にお見えになる方の支援は、必要かもしれませんね。ありがとうございました。

#### <周南地域子育て支援ネットワーク 虹色ねっと>

今、移住の話もあったが、定住についても考えてみてはいかがかと思った。人口が減少し、定住を図るためにも、大きい子どもの世代も住みやすい場所にする必要があるのではないかと思う。

子ども達に聞くと、周南市には遊ぶところが少ないと言っている。ボーリングやカラオケなど市外に行かないとない。友達同士で、遊ぶ場所も市内には少ない。体育館なら皆で遊べるよと、子ども達に利用方法を教えたところ、体育館を借りてバスケットボールをしたり、低額でテニスをして遊んだりした。

若い子ども達への発信も必要である。また、小さい子ども達が遊べる安全場所も必要で、公園でも子育て世代の目線や、幼稚園の先生や保育士などの目線も必要で、危険なものは撤去するだけでなく、例えば子どもの運動する機能にあわせた遊具も必要である。

広場があっても、近所にボールが飛んだらいけないので、ボール遊びは禁止にされたら、どこで遊べばいいのかと小学生の子どもは感じている。学校によっては、放課後には行っただけいけないところもあり、いろいろな規制のある中で、いろいろな世代の子どもが安心して遊んだり、集える場所が必要である。

若い子はバンド活動をしている子もいるが、学び交流プラザには音響機器が備わっているが、そういうところも意外と知らないこともある。市としても発信が必要と思う。

この度の子育て情報サイトのアプリも、いいものだと思う。これまで、「はぴはぐ」を利用してきているが、バージョンアップして助かっているのだが、もっと大きい子どもにも発信できるようなものになるといいと感じる。学校を通じて、発信してもいいと思う。

子ども達が、大人になっても住みたいな、周南がいいところだと感じる事が定住にもつながっていくと思う。

#### <市長>

本当に大切なお提言です。子どもも、若者も、高齢者も皆が住みやすく、多くの方に住んでいただける町にしていきたいと思う。この度のご提言を参考にさせていただく。

皆さんから、多くのご意見をいただいた。この度、こども局を新設するがそちらの方でもしっかりと検討させていただきたい。皆さんと、いろいろな形で繋がりをしながら、未来の周南市を担う子ども達と一緒に育んでまいりたいと思う。

#### <シティネットワーク推進部長>

皆さん、どうもありがとうございました。各団体、すべての方々が、子育てをサポートしたいという強い思いで活動していただいている、ご苦労やコロナ禍での状況なども伺が

った。

核家族化や、地域の繋がりが薄れていく中で、子育てにおいて孤立化することがないように、いろいろな世代間の交流や日頃からのコミュニケーションは大切で、地域の皆でサポートしていくことが安心感に繋がるなど大切なことを再認識させていただいた。

兄弟姉妹や親戚なども少なくなっている中で、子ども同士の中でも世代間の交流が減っているご意見もいただき、改めて気づかせていただいた。地域だけでなく、いろいろな団体との繋がりを持って情報共有していくことの大切さも教えていただいた。

また、子育て中の皆様に情報が届くような仕組みづくりが大切で、それを、皆さんの活動の中だけでなく、「はびはぐ」の話しもあったが市として、子育てだけでなくいろいろな情報をきちんと発信していかなければいけないなと感じた。

子育ては、お母さんだけでなく皆で取り組まないといけないし、子どもが小さい間だけでなく、大人になるまでの間が大切で、市ではそこが連続していくように施策を展開させる必要も感じた。

#### <市長>

公募による懇談会は、今回は3回目で、出席者が女性だけというのは今回が初めてで、子育てに関しては、女性が身近で関わっていかないといけないという思いで皆さんが集まっていたらと思っています。各団体が、貴重なご意見をいただいて本当にありがとうございました。

安心して子育てを行うために、「地域とともに子どもを育む」という視点で地域や家庭、また、職場などにおいて、子どもの健全育成や、子育て環境の改善を図るなど、幅広い取り組みが行われている。

こうした取り組みを、地域全体で行うことで、今後も、子育てしやすいまちづくりを進めていく。

4月から、こども局で子育て環境の充実など、子ども達が笑顔で暮らすまちを目指して取り組みを進めることとしている。これからのまちづくりを進めるには、行政だけでなく、皆様お一人おひとりのお力添えが不可欠である。

コロナ禍の中、子育てにおいて相談する人もなく、孤独や不安を感じている方も多くいらっしゃると思う。そういった不安を取り除くため、皆様方の、知恵や知識や経験を活かして、積極的に、子育て家庭に関わっていただきたいと思う。

市も頑張っていくので、一緒に、力を貸して欲しい。今後も、本市が進める、「安心して子育てができるまちづくり」にお力添えくださるよう、よろしく願います。

結びに、皆様方の、今後、益々のご活躍を祈念し、終わりの挨拶とさせていただきます。

本当に今日は、ありがとうございました。